

## 序

所謂無回転の鮪店から足が遠のいて久しい。最後に行ったのは何時か、何処かすら記憶にない。無回転のお鮪屋さん、申し訳ない。著者（以降ワシ）が行かなくて客数減、売上減に大いに貢献してしまっただけは事実であり、その罪は大きい。すまない。

近所のお鮪屋さんか、ひっそりと暖簾を降ろされた。今までにその店に行ったことは無かったが、何時かはその暖簾をくぐってみたいと思っていたのは、真実である。

「まあ、あんた一人が来なくても大した影響は無いよ」と言って、ご容赦願いたい。

行かなくなったのは、ワシ一人か？否、ワシらと複数形になるのではないか？

行かなくなった理由を考える前に、ワシらが無回転の鮪店に足を運ぶ理由・動機を考察すると、無回転以外の営業形態におけるすし店に無いネタ、旬の物、地元産の物、そして飽きが来ない物、つまり旨い魚（肴）を求めて行くことが、その理由・動機の一つであることに間違いはない。魚へんに旨いと書いて「鮪」然りである。

そもそも「おすし」なるものは、「ハレ」の食べ物の一つである。自分や家族や仲間が好きであった時に、おすし屋さん（全形態）に足を運んだり、持帰って食べたりするものである。中には、自ら作る事もあるであろう。しかし、毎日々々好きがあれば、「毎日がすし曜日」で好ましいが、そううまく行かないのが、現実である。むしろ、うまく行かない事が多く、「気晴らし」「憂さ晴らし」で「おすし」を食べる方が多いのが現実であろう。また、好事・その逆に関わらず、ただ単に（無性に）食べたいから食べるという事も当然あり得る。「食べたい時が旬」という言葉を見聞きした記憶がある。

ちなみに、「ハレ」の対義語は「ケ」：日常であり、「おすし」は毎日（毎食）食べるものではない。何れにしても「おすし」なるものは、「ハレ」の食べ物の一つである。

なぜ、ワシ（ら）が無回転の鮪店から足が遠のいたのか、その理由・動機を考えると

- ①車で行くので、酒飲めない。なので家で鮪・肴をつまみながら1杯やりたい
- ②今でも、時価でやってるのか？敷居が高くて入れない。今や身の丈以上
- ③相変わらず、景気良くない。いったい何時になったら景気良くなるのか？期待・希望は持てない。また、誰かに頼らず自ら「何かをすれば景気良くなる」事も見当たらないのである。鮪食って腹具合悪くなるのは論外だが、懐具合悪くなるのは誰の所為か？
- ④無回転の鮪店が、外部環境の変化に対応する、改善に向けた新たな形態へ変化する兆しや態度が、全く無いか、あったとしても、全くワシ（ら）に伝わって来ない。外的変化に対応した（変態の）1例が回転寿司であろう。同じ「変態」を求めているのではない。当然、変えてはならない所や、変えるべきではない所があるのも事実であるが、何も変えない、変えられないのは、ますますワシ（ら）の足が遠のくことになる。
- ⑤ズバリ、好き事が無い（冗談ではない）

理由・動機は、その他ありそうだが、概ね上記5点に集約されるのではないか？

しかし、ワシ（ら）は、無回転以外のすし店に無いもの、旬の物、地元産の物、そして飽きが来ない物、つまり旨い魚（肴）を求めて、無回転以外の営業形態におけるすし店やスーパー等を彷徨っている。各店には申し訳ないが、満足できるものが無いか、非常に少ないのが現実である。つまり、季節感を演出した地元の旬の物が極端に少ないのである。

ならば、無回転の鮪店に足を運べばよいのでは？と自問自答するも上記①に戻る。

つまり、堂々巡りである。将棋の世界では千日手、IT業界では永久ループである。

ある日、ワシは、ふと思った。ワシ（ら）が求めている「A11石川の素材を以て旬の季節感に満ちあふれた鮪」を自ら作ることは出来ないか？出来るのではないか！ネタ・わさび・米・酢・酒・醤油全て石川産で揃うのではないか！少し無理があるのは塩・昆布・砂糖・海苔くらいであろう。これらの素材は国産であれば県外産で容認され得るのではないか。出来る。確信した。先ずはネタ探しから、これが全ての始まりであった。